

研究者リーダーシップ・プログラム

「第1回 参加者による自己紹介とリーダーシップについて」参加レポート

講師の東村先生の自己紹介から始まり、みなさんの自己紹介を聞きました。どんな方が参加しているのかな、と思ったら意外と知り合いの方や同じキャンパスの方も多く、顔見知りでもなかなか共通話題がないとお話できないので今後キャンパス内でもお話しするきっかけとして、とてもいい機会になりそうと思いました。

また、みなさんの悩みなど共感できるところがあり、自身が思い悩んでいたことなどに共通点を見だせ、今後お話しをもっとしてみたいなと思いました。

東村先生のお話しではリーダーシップやジェンダーダイバーシティーに関してご講演をいただきました。日本は男女差が先進国のなかでもとても多いこと、工学系の研究者が研究者の中で一番多いが工学系の女性研究者がすくないことなど初めて知りました。また、多様性に富んだチームではいい業績があげられる可能性が大きいこと、ライフイベントがある時に一時的に仕事をセーブすることが堂々とでき、その後自分も他の人のサポートへ回るなどみんなが肯定的に不満なく活動するチームは活性化すること。逆に不満が多いチームはやる気が出ない、活性化しないチームとなってしまうということは、その通りであるとおもいました。

女性研究者は出産育児があり、自身もその影響で、なかなかキャリアにつながる業績などがだせておらず、この先のビジョンなどが掴めていない状況でした。しかし、東村先生のご講演にあったように、諦めない限り負けない、ピンチはチャンスなど、わかっているけど声に出して実際に実行している先生より言うだけのことにより、「そうなのだ、わたしも頑張ろう」という気持ちになれました。聞いていると共感ばかりでしたが、東村先生のようにすぐに実行するのは難しいと思いますし、やっぱりスーパーウーマンにならないとポジションなどは掴めないのかなと思うところもありました。いろんなリーダーがいていいということで、自分の強み、弱みを再度認識するとともに、自分なりのリーダーシップを育てていけたらと思いました。

(稲見恵理・名古屋大学大学院医学系研究科 研究員(学振 RPD))